

僕の学校生活の変動

京都文教中学校三年（京都府）

小畑 健人

僕は、中学一年生の頃から不登校でした。二年生の後半から時々登校できるようになってきました。そんな時、茶道の授業があると聞き、とても嬉しかったです。なぜなら僕は抹茶が大好きで、その抹茶を点てることができるなんて、こんなに嬉しい事は無いと思ったからです。

そして茶道の授業を初めて受ける日、「どんな先生だろうか？」「どんな授業だろうか？」といった緊張がある一方で、「お抹茶を点てられる！」「茶道を習うことができる！」といったワクワクがありました。

いざ、受けてみると、先生が優しく教えてくれて、色々なことを学ぶことができました。例えば常に変化しつつ、目的に向かって絶え間なく努力し続けることが大切という意味の「流水無間断」だったり、一文字ずつ意味がある「和敬清寂」など、すごく良い言葉を教えてもらいました。その言葉の意味は、今の自分にとって大切で、絶え間なく努

力する事が重要だと改めて思いました。

この茶道の授業に関心を持ち、茶道の授業がある火曜日は四限目まで学校に行けるようになりました。そして、都合が悪く、午後から学校に行かないといけない日もありました。しかし、茶道の授業はどうしても行きたかったので、始めて学校でお弁当を食べて四〜六限目まで授業に出ることができたこともありました。このような大好きな授業ができたことは初めてです。

しかし、そんな楽しみだった茶道の授業でも、どうしても出席できない日がありました。その日に茶杓を削る授業があったため、あらためて僕だけ次の授業の時間で削ることになりました。後ろで少しだけ授業を受けてから茶杓を削ることになりました。いつもどおりの授業でしたが、後ろで授業を受けていたため気づいたことがあります。それは、皆が和菓子とお抹茶を飲む少し前になったら、助手の先生たちが授業をしている先生をちらちら見て、お抹茶を運ぶ時を見計らっていました。いつも、良いタイミングで運んでくださると思っていました。しかし、このことについてあまり深く考えていませんでした。しかし、このように先生達が裏で頑張ってくれているということを実際に見て、とても驚きました。茶道に限らず、僕たちが安全に日常生活を送れるように、裏で支えてくれている人たちがたくさんいると思います。だから、今僕が生きていることに感謝

するべきだと感じました。

最後に、茶道の授業に出席することができてから、僕はだんだんと学校に行けるようになっていきます。皆に感謝し、これからも学校に行けるように頑張っていきたいと強く思いました。